別紙様式

令和5年度　　学 校 評 価 自 己 評 価 表　　東広島市立下黒瀬小学校

学校教育目標	かしこく　やさしく　たくましく　～　社会に出て通じる力の育成　～	経営理念 学校経営目標	【ミッション】学校の使命 これからの社会で活躍することができる「力のある子ども」の育成 【ビジョン】 〇めざす学校像：共に高まり　自己肯定感がもてる学校　「目標をもち　共に高まる」 〇めざす児童像：進んで学びあう・人を思いやる・何事も最後までねばり強くやり抜く子ども 〇めざす教師像：めざす児童像実現に向け、創意工夫して取り組む教職員	

							自己評価					学校関係者評価			改善方策	担当
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 9月	達成値 1月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価 イ	評価 ロ	評価 ハ		
かしこく（知）	1	学ぶ楽しさを味わわせ，確かな学力をつける。	基礎・基本の学力の定着・向上を図る。	・学力調査（標準学力検査，標準学力調査），単元末テストの結果を活用した授業づくり ・思考場面や表現活動を取り入れた授業づくり ・タブレットドリルの活用 ・読書活動の推進 ・コグトレの活用	・標準学力調査（12月実施）の平均正答率が全国平均を上回る。（標準スコアが50を超える）または昨年度の実績を超える。 ・正答率40%以下の割合を令和4年度以下にする（児童の割合） ・国語科，算数科の単元末テストの平均正答率を85%以上	標準スコア50以上，令和4年度以上または85%以上	単元末テスト 国語科 83.9% 算数科 83.0%		98%	B	単元末テストの結果は，国語・算数の平均83.5%であり，目標値である85%をやや下回ったが，児童は順調に学力をつけていると考えられる。要因としては，以下の点が挙げられる。 ・学校全体が落ち着いた雰囲気で授業を行うことができていること。 ・標準学力検査，全国学力・学習状況調査，単元末テストの結果を活用した授業づくりをしていること。 ・思考場面や表現活動を取り入れた授業づくりをしていること。 しかし，課題として，単元末テストで正答率40%以下の児童が3%いることが挙げられる。	〇			各学年で行った標準学力検査，全国学力・学習状況調査，単元末テストの結果を分析して把握した課題となる分野を意識し，下小タイムなど朝学習の時間を使って重点的に取り組む。 思考場面や表現活動を取り入れながら，児童が主体的に考えるような授業を展開する。 読書記録を有効に活用し，読書活動をますます推進させる。 各学級で学力に課題のある児童の状況を把握し，個に応じた指導をしていく。	教務
			児童が主体的に考え対話する授業づくりを行う。	・育成したい資質・能力を意識して授業のねらいを明確にした授業研究の推進	・児童自己評価アンケート①「できるようになることを明確にして授業に参加していますか」②「進んで自分の考えを伝えようとしていますか」の肯定的評価を85%以上	85%以上	アンケート① 92．2% アンケート② 87．8%		105%	A	児童の自己評価アンケートはどちらも目標値である85%を上回った。その要因としては，以下の点が挙げられる。 ・育成したい資質能力を意識するとともに，単元のねらい，一時間ごとのねらいを明確にして日々の授業実践を行っていること。 ・児童が考えを伝え合える場の設定を工夫していること。	〇			各学年で代表者が行った研究授業の後，改善案を立ててもう一方の学級の担任が授業を行うことで，授業改善を行う。 自分の考えを持ちにくい児童，表現することが難しい児童に対する手立てを考え，実践する。	教務
やさしく（徳）	2	自他を尊重し，思いやりと協働意識を育てる。	・自分から進んで挨拶をする態度を育てる。	・見取りと価値付け 「あいさつ名人」 「登下校のあいさつカード」 ・委員会活動との連携 「あいさつ週間などの取組」 ・学級でのあいさつ文化の醸成 ・PTAや地域との協力	・児童自己評価アンケートによる「自分から進んで挨拶」の達成率を85%以上	85%以上	94%		111%	A	今年度も，「あいさつ名人」の評価基準を各学年の発達段階に応じて整理し取り組み，「自分から進んで挨拶をしている」の9月のアンケートでは，94%の児童が肯定的に捉えている。また，前期のあいさつ名人には55名の児童が選ばれ，生活安全委員会の児童主体の取組や各学級で挨拶をがんばっている児童を価値づけをすることで，日常の挨拶の意識は高まっている。しかし，登下校の挨拶に課題があるため，具体的な取組が必要である。	〇			教職員が積極的に挨拶をしながら，あいさつ担当教諭が，日々の児童の挨拶の姿を観察し，放送やリモート等を活用しながら具体的な評価・価値づけを行っていく。 日々の各学級の生活の中で，挨拶を頑張っている児童に対して教師や児童同士で価値づけを繰り返しながら，互いに高め合える環境づくりをしていく。 生活安全委員会と連携し，前期の振り返りから明らかになった課題に対して，新しい取組を児童主体で取り組んでいく。 登下校の挨拶に課題があるため，一斉下校時や学級での指導を繰り返し指導する。	生徒指導
			・お互いの良さを認め合える集団を育てる。	・温かい学級づくり 「いじめ0宣言」 「いいところ見つけ」 「ぽかぽか言葉」	・学級での自分のがんばりと友だちの良さを見つける「いいところ見つけ」，「学級にいると安心して過ごせる」自己評価アンケートを85%以上	85%以上	「いいところ見つけ」91% 「学級にいると安心して過ごせる」95%		109%	A	9月のアンケートでは「いいところ見つけ」91%，「学級にいると安心して過ごせる」が95%であり，平均すると93%で目標を達成した。課題としては，「学級にいると安心して過ごせる」のアンケート項目について，9%の児童（約30名）が，否定的に捉えているため，全員の児童が肯定的に捉えられる学校にしていく必要がある。	〇			後期から実践を予定している企画委員会主体のロング昼休憩を活用した絆を深められる取組を行うことを通して，児童相互，また教師との絆を深められるようにする。 全教職員が全児童に対して，積極的な肯定評価を意識し，言葉にこだわって声掛けをしていくことで，児童のモデルにもなるとともに，安心できる環境づくりをする。 各学級でも，絆を深められるような学級活動に取り組み，実践を教職員で共有していく。	生徒指導
たくましく（体）	3	たくましい気力・体力を養う。	・運動に対する意欲の向上を図る。	・運動量，意欲向上を意識した授業づくり ・教室からっぽデーの実施	・児童自己評価アンケートによる「学校生活の中で自分から進んで運動をしている」の達成率を85%以上	85%以上	80%		94%	B	前期末のアンケートでは，「自分から進んで運動をしている」児童は80%であり，目標値の85%をやや下回ったが，多くの児童が進んで運動しようとしている。要因としては，運動量を確保するため，授業の準備運動で下小トレーニングをする際にトラックの周りを走ったり，週に1回教室空っぽデーを実施して外遊びを推奨したりしていることが考えられる。 一方で，20%の児童は「進んで運動をしていない」と回答していることが課題として挙げられる。	〇			体育科の授業では，単元ごとに各学年に応じたワークシートを使用したり，達成感を実感したりできるような授業の工夫をする。また，めあてを明確にして意識させ，振り返りができるようにする。 引き続き，体育の授業の準備運動では，下小トレーニングを行い,体力テストで課題として挙がっている「走力」と「投力」のトレーニングを行う。 体育の授業内で，作戦タイムやアドバイスタイムなどの友達と話し合う機会を増やすことで，友達と一緒に運動する楽しさを味わわせる。	保健安全
			・生活習慣を見直し，健康の保持増進への意識を高める。	・スマイルカードの活用 ・食育の推進 ・委員会活動との連携	・児童自己評価アンケートによる「生活習慣をよりよくしようとしている」の達成率を85%以上	85%以上	早く寝ようと思う78% 朝ごはんを毎日食べようと思う84% メディア時間を減らそうと思う60%		80%	B	スマイルカード実施後のアンケートでは，生活習慣をよくしようという意識はいずれも85%に届かなかった。しかし，もともと生活習慣が整っている児童が「いいえ」や「どちらでもない」を選択した可能性も考えられたことや振り返りで「ゲーム時間が多いので減らそうと思った」という内容が一番多く，児童が生活習慣をよくしようとする意識がみられたため，達成度を80%とした。しかし，保護者アンケートでは児童専用のスマートフォンの所持率が76.4%と高く，ゲーム機だけでなく様々なメディア媒体が児童のまわりにあるため，児童の意思だけでネットやゲーム制限をかけるのは困難な面もあり，家庭との協力が不可欠である。	〇			引き続き児童への保健指導を行うと共に，特にメディア使用の時間が長い，就寝時間が遅いなどの児童については，個別指導も検討していく。 保護者にもほけんだより等でゲーム依存症などを例に啓発を行い協力を求めていく。	保健安全
信頼される学校	4	教職員が元気で，信頼される学校を創る。	・安心安全な環境づくりや保護者・地域との連携に努める。	・整理整頓され，創意工夫のある掲示や教室環境整備 ・学校，学級の様子を便りやHPで発信 ・状況に応じた学校からの情報提供	・保護者アンケート「学校に対する肯定的な評価」の割合を90%以上	90%以上	環境整備 94.1% 情報発信 95.9%		環境整備 100% 情報発信 100%	A	保護者アンケート「校舎内外の環境が行き届いている」については，94.1%が肯定的評価だった。引き続き，教室，廊下等の整理整頓に努めるとともに，児童の頑張りを見ることができる掲示や児童の心を育てる掲示を随時更新していく。 「学校は，学校や子どもたちの様子を学校便り，学級通信，ホームページ等で分かりやすく伝えている」については，95.9%が肯定的評価だった。今後も，学校便りや学級通信，ホームページ等で旬の話題を伝えていく。また，必要に応じて電話連絡，家庭訪問等を行い，保護者・地域の方との連携を密にしていく。	〇			環境整備については，整理整頓された状態が当たり前になるよう継続していく。また，同じ掲示が長期間続かないよう，声を掛け合いながら更新に努める。 引き続き，学校，学級の様子を便りや通信などでタイムリーに伝えていく。	教頭
			・効率的な業務を推進し子どもと向き合う時間を確保する。	・教職員の予定退校時刻の設定 ・学校行事の見直し，精選 ・週1回の定時退校日の設定 ・定時刻の教室の施錠	・常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均を45時間以下とする。	年間平均45時間	4月～9月平均 47時間13分		95%	B	4月～9月までの常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均は，47時間13分だった。平均60時間を超えている職員が14%，45時間を超えている職員が43%おり，勤務時間外在校時間の偏りが見られる。全て授業の準備，行事等の計画・準備，保護者連携等，児童への教育活動のための時間であり，縮減することは難しいが，勤務時間外在校時間が長時間になると，職員が心身とも疲れ，児童と直接向き合うときに，職員のパフォーマンスが十分発揮されないことも考えられるので，時間外在校時間を削減していく必要がある。	〇			教職員の予定退校時刻の設定，学校行事の見直し，精選等を継続して取り組んでいく。また，職員に個人別の勤務時間外在校時間のカード（1か月の平均，累積等を記録したもの）を配付し，自分の状況を確認し，早期退校を促す。	教頭

※目標の精選と重点化を行い，重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

A･･･100≦（目標達成）
B･･･80≦（ほぼ達成）＜100
C･･･60≦（もう少し）＜80
D･･･60＞（できていない）
達成度＝達成値／目標×100

イ･･･自己評価は適正である
ロ･･･自己評価は適正でない
ハ･･･分からない